(C)日刊スポーツ新聞社

世界平和願い白一色のアステカ

栄冠導いた団結

アルゼンチン

神様がいてそして10人がいた

ブラウンの勇気、バルダーノの突破力、ブルチャガの読み……

ペレの目

監督の願い通す

「状況判断の速さ」見習いたい

石井義信・日本代表監督「疲れが出てだらけるかと思ったけど、さすがにトップのチームだ。マラドーナはきっちりマークされていたが、そこに西独DFが集中したスキに、他のアルゼンチン選手の個人技が出た。」

木村和司（日産F・日本代表MF）「マラドーナのゴールに向かう勇気と、小さいながら完成された肉体に感動しました。アルゼンチンの勝利は、マラドーナを中心とした各選手の個人技が攻守の面でしっかりかみ合っていたところに尽きると思います。切り替えや、状況判断の速さは大いに見習うものがありました。」

越田剛史（日産F・ゼロックスサッカーで来日したマラドーナと対戦）「僕どもやった時は当たりの強さはわからなかった。当たる前に抜かれましたから（笑）。あれから4年で成長したろうから、すごいとしか言いようがないですよ。」

◇…満員のアステカスタジアムは白一色だったが、これは大会組織委のイキな計らいから。白はメキシコ男性の純粋な気持ちを示す色で、一世界平和のために決勝では白シャツ着用をと事前に呼びかけたため。おまけにグラウンドには白いハトが舞い降りる手回しの良さ。（写真はNHKテレビから）

◇…試合開始1時間前、今大会ベスト・ゴールを記念するプレートの除幕式が行われた。選ばれたのはマラドーナが対イングランド戦で演じた6人抜きの神技ドリブルシュートと、ネグレテ（メキシコ）がブルガリア戦でみせた強烈なボレーシュート。両選手によって除幕されたプレートはアステカ・スタジアムのドレッシング・ルームに永久に展示される。

◇…ホクホクの契約会社　ブーマの日本総発売店、リーベルマンもホクホク顔。W杯でのマラドーナ人気を見込んで、マラドーナモデルとしてスター（8900円）、ピアンカ（5900円）、ナポリ（5000円）と3つのタイプを6月20日に全国新発売したばかりだ。「王、日には彼の活躍で、売れ行きもグンと伸びた」と同社の営業部も喜んでいる。買い手のほとんどはマラドーナを夢見るチビっ子ファンだという。

現地にいる電通、ISLなどの日本人プロモーターたちもこぞって大人気に敏感に反応、3度目の来日実現に動き出す気配だ。

アルゼンチン共和国　国名は、ラテン語で銀産地の意味。面積276万6889平方㌔（日本の約7倍）、人口は3010万人。首都は、昨年6月にペソから変わったアウストラル（1アウストラル約280円）。平均寿命は男66歳、女73歳（1983年）。テレビ普及率は、人口100人当たり199台（日本は257台）。首都はブエノスアイレスで290万人。

【先制点】　前半21分、ゴール前に上がったセンタリングボールを、ホセ・ブラウン（中央右）は鮮やかにヘディングでゴールを決めた。その下はマラドーナ（AP）

【決勝点】　後半39分、西独ディフェンス陣をかわしブルチャガ（中央）が決勝のゴールを決めた（ロイター・サン＝共同）

◇29日◇アステカ競技場◇観衆114,580人

アルゼンチン	3	2	西ドイツ
	1-0		
	2-2		

◇得点経過◇①後半10分ブルチャガ②後半39分ブルチャガ【西】①後半21分ブルフ②後半28分ブリーゲル③後半37分ブレーメ

0	2	0	0	0	0
0	0	1	0	1	0
1	0	0	0	1	0
0	0	0	2	1	0
1	0	0	1	0	0
4	2	1	3	3	0
11					10

㉑	GK	ハラー	㉑	GK	ムンタ
㉒		マルター	㉒		ヘーゲル
㉓	DF	ブルスターク	㉓	DF	フェルスター
㉔		ユリエフコビッチ	㉔		ブリーゲル
㉕		ブルフ	㉕		ベルトルト
㉖		ネボヤ	㉖		ブレーメ
㉗		ブランコビッチ	㉗		ベルフォ
㉘	MF	ストイコビッチ	㉘	MF	ルンメニゲ
㉙		ガジッチ	㉙		ブルフ
㉚		ミハイロビッチ	㉚		ブレーメ
㉛		ペトロビッチ	㉛		ベルフォ
㉜	FW	サビチェビッチ	㉜	FW	ルンメニゲ
㉝		ガジッチ	㉝		ブルフ
㉞		ヤンコビッチ	㉞		ブレーメ
㉟		ストイコビッチ	㉟		ベルフォ
㊱		ペトロビッチ	㊱		ルンメニゲ
		合計			合計
	シュート	18		シュート	5
		GK			GK
		8			6
		F			F
		8			3
		K			K
		29			33

【注】○数字は年齢、同白ヌキは交代選手

◇…ベンチの指示は、ブラウンの勇気ある判断をたたえた。彼は、前回スペイン大会で主将を務めたパサレラの代役だ。ビラルド監督は自国マスコミの批判にも耐え、ずっとブラウンを使い続けた。「必ず期待にこたえてくれる」の信念があったからで、ブラウンも監督の願いを大事なところでかなえたものだ。FKに続く反応、西ドイツの名GKシューマッハの手をかすめたボールが上がって頭で当てた。攻守両面で万能型のパサレラに比べ、ブラウンの攻撃参加は魅力に見劣りする。

しかし、息実なプレーぶりはアルゼンチンの11人にはかせず、しかもこの一番の決勝で先取点は重みがある。ブラウンは「これで、国へ帰っても胸を張れる」といっていたが、ゴールのチャンスを狙っていた位置に詰めていたためだ。

アルゼンチンは、決してマラドーナだけのチームではない。2点目を取ったバルダーノの突進力、決勝点のブルチャガがみせた一手先を読む戦略眼の高さ、GKブンピードをカメムとしたDF陣の厚い守りは、互いが互いに信頼し合っているからできるものだ。マラドーナばかりに注目が当てられていれば、だれかが気分を変えても不思議ではない。私はこの原ではわからない。でも、いざラウンドに立ったらマラドーナに従い、そして自らの持ち味を出し切った。世界一のチャンピオンチームと呼ぶのに、これほどふさわしいイレブンはいないだろう。

西独一瞬のスキ

敗れたとはいえ、西ドイツの反撃は驚くべきものだった。2－0とリードされ、もうゲームは終わったと思えた時から、一転して魂の爆発だ。後半28分は欧州のスーパースターの意地をみせ、ルンメニゲがスライディングで押し込んだ。渡辺攻撃はやまず。36分にもヘディングでつなぎ、交代出場のフェラーが同点とした。ゲームの流れが西ドイツに傾きかけたあと、フッとしたディフェンスのスキが生じた。10秒あれはゴールに結びつくサッカーでは、すべてがうまくいきすぎている時ほど危険が多い。2分後の決勝ゴールはそんな伏線があった。勝者と敗者、結果は非情なほど立場を違えたが、90分間、1つのボールを追い続けた22人のそれぞれの個性で、ワールドサッカーの歴史がメキシコでまた新しく刻まれた。

厚い信頼感が互いの持ち味引き出した